

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3372201024		
法人名	有限会社 敬仁会		
事業所名	グループホーム万富の家		
所在地	岡山県岡山市東区瀬戸町万富1908-1		
自己評価作成日	平成25年1月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3372201024-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3372201024-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成25年2月13日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

毎日大きな声を出し、元気に歌を唄ってもらい個々にあった家事手伝いをスタッフ、入居者と協力しながら行い、生き生きとした毎日を送る。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者が自由に自分の気持ちを表現して生活できる場所を提供していて、一人ひとりの利用者はその空間を自由に使って生活しているなと感じた。職員は其中で利用者のしていることに寄り添って、さりげなくそれらを手伝い自分も楽しんでいるという感じがする。これは利用者の動きや表現、表情が前面に出ている。この5人組は自分等で歌を唄い、どこまで続くかわからない。片方で塗り絵をしたり、ドリルをしたりして一人ひとりが自分のペースで進めている。その一番良いのは職員の動きが目立たないことである。一方で厨房では職員が一生懸命働いている。食事時間になれば、利用者のテーブルの中で職員も全員テーブルに就いて一緒のものを食べて、色々世間話をしている。つまり、利用者が主人公で本人本位の生活の場を見ることが出来る。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールに掲載し、また会議等で話す機会を設け、より理念に沿うような仕事をしている。	理念や基本方針等を定めた文書が掲示され、会議等で職員間で確認している。運営の方向性の確認やケアやサービス提供の状況を判断する材料となっている。自己評価がその実践の評価となっている。	この自己評価の評価基準55項目がグループホームのケアやサービス提供の業務を細分化したもので、この各項目をホームの実施計画にして、それがどれだけ実践できたかを毎年度職員で評価してみると、その総合が理念の評価につながっていくと思う。その意味で自己評価こそが大切です
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベントの際には、地域の人にボランティア、協力を得て親しく話ができ、声掛けも良くして下さる。	利用者の家族の知人がこのホームの歌好きを見て、地元の歌手を呼んでくれた。夏祭りや餅つきには地元老人会の手伝いをしてもらっている。この地域の人はこのホームに作物を持ってきてくれて応援してくれる。	運営推進会議の報告事項はすっかり書いている反面、審議したり、意見が出たりしたことはきちんと記録に残しておいてもらいたい。色々な意見や話し合いがされているので、この結果を残しておけば、当然ホームの運営にも活かされると思う。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区文化祭(万富公民館)に参加し、出品展示し、見学に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の活動、利用者の状況報告をしている。行事等への参加、ボランティア依頼など地域に密着した活動、交流を行っている。	2ヶ月に1回、2つのホームが合同で会場当番をして運営推進会議を開催している。議事録のメモを見ると、出席者からの色々な意見が出て、問題点も話し合っている様子が伺え、活力ある会議をしているなど感じる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センター担当者に現場の状況を理解していただき、アドバイス等協力を得ている。	包括支援センターや在宅介護支援事業者との連絡を取り合っており、アドバイスももらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が対応方法を徹底し自由で安全な生活を支援している。	現在は拘束はなく、ましてや虐待などはあり得ない。そうは云ってもみても、介護と安全は場合によっては裏腹の関係にもあり、安全のためには拘束的行為はあり得ることだと思う。この時の職員の気持ちの持ち方が大切である。ホーム内で研修や話し合いをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体にできるアザ、傷を発見したとき職員で確認しあい原因等話し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	他事業所の成年後見人の実例を聞き制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時事業所の方針など理解と対応可能な範囲について説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月一度「万富の家便り」に近況を書きお知らせしている。また、電話、面会時にコミュニケーションを図り意見をいただいている。	家族は月1回以上は来訪してくれるので、家族ともよく話し合っているし、ホームでの生活の様子もよく知らせている。又便りで、ホーム全体のこと、個人的なことを担当者が報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員同士コミュニケーションを図り案を出し合っている。	毎日の申し送りで利用者のこと仕事のことを伝えているが、抜け落ちやうっかりして忘れてしまう事を予防する為に、ホワイトボードに重要事項や忘れがちな事は表示して職員が気がつくようにしている。利用者の担当制を定め、利用者の身の廻りの世話やお便りを書いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個別の相談を受け向上心を持てるように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修で資質向上を自主的に持ち、自己啓発を重点に進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報交換のできる事業所があり連絡を取り合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期入所の方にはコミュニケーションを密にし他入居者、職員と信頼関係が持てるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの相談には耳を傾け入居者の状態を細かく伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いや状況を確認し改善に向けた必要なサービス提供に心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の思いを時間をかけ聞き理解し、苦しみ喜びをスタッフと共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状態を家族に報告し家族と職員の思いを聞き伝え協力関係が築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の友人など施設に遊びに来てもらい交流ができています。	グループホームは住む場所なので、新しく入所してきた時は先ず8人の利用者と仲良くなるのが一番大切。自己紹介をした後はどの人と一緒に座れば一番良いか、そして職員が傍についている時間を多くとりホームに慣れてもらう。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う物同志で過ごす場面づくり、みんなで楽しく過ごす時間を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	情報提供を得て連携に心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中での会話より本人の意向を見出している。心身状況の違いなど個人を尊重した介護方法で対応している。 (23・目標計画達成)	利用者の気持ちや心の中での思いを知ること、利用者がこのホームで生活する上で一番大切なことであるということはケアマネージャーも管理者も認識していた。利用者の会話や動作の中から出来るだけ知ろうとしていた。	利用者の思いや意向を知る、これは利用者がホームでどんな生活をしたいのかを計画する為の基礎となる。例えば「誰と、どこで、どんなことをして、どんな時に、…」等、具体的に表現してもらいたい。本人と職員のコラボでも良いと思う。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や担当ケアマネージャーより情報を収集し、入所してからの対応を検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人で過ごしたい方がおられ、それぞれの性格にあわせ無理のない生活を送っていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体、精神状況を話し合い、家族、職員と相談し最善な策で計画し実践している。	ミーティングで利用者一人ひとりのモニタリングをして、介護計画で描いたその人の生活状態や心身状態の様子を出席した職員で意見を出し合い、利用者の生活ぶりを良くしていくよう支援している。	基本となるのが本人に対するアセスメントの充実であり、それを柱として「日常、その人に支援しなければならない事項、内容」を明確にしておく。そしてその機能の状態の中から改善していく為の「ケアプラン」に展開していくと明確になると思う。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の申し送り時、心身状況会話等の情報を伝え介護計画、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調の変化を看護師に相談し、かかりつけ医に連絡アドバイスももらい受診、往診、薬受けもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	二か月に一度の運営推進会議で夏祭り、クリスマス会、餅つき大会等地区の方々に季節の行事を協力して共同の楽しみを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望されるかかりつけ医になっている。受診のできる家族には介助して頂き、職員と同行することもある。主治医とも連携し適切な医療を受けられるようにしている。	受診は家族とホーム(ケアマネか看護師主体)両方で支援している。利用者の病気の状況は家族にはいつも連絡している。週2回はホームの看護師が利用者の状態を看ているし、介護職も気になるところは想像できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護、介護は密に連携が取れており十分な支援ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との情報交換は出来ている。対応可能な段階で早く退院できるよう、医師と相談する機会を持っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師、家族、職員で連携を取り納得支援している。	現状ではターミナル対応を心配しておかねばならない利用者はいない。この人は大変だなあと思える人も、身体を複雑に曲げながらもテーブル拭きに精を出していた。重度化したり異常な混乱状態になったら、医師とも相談して先行の判断が出来たら家族とも相談したいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは掲示し、会議、休憩時間も職員どうし話し合いができています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回入居者と共に訓練している。運営推進会議で地域の協力もお願いしている。	今までは面積的に問題なかったが、スプリンクラーの設置は必須条件となってきたようだ。それを地震発生時に落下物のないよう点検も必要である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格を把握し言葉かけに心がけている。	トイレや入浴する時に利用者の衣服を着脱支援について、職員の声掛けや動作については特にプライバシーを保護することが大切であり、職員間でも話し合っているということを確認した。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを尊重している。本人の意見が言えるように声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に合わせて希望を聞き職員と相談し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装、化粧など本人と相談しながら季節感を考慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜を使い献立をたて、食べたい物など聞きメニューに入れている。野菜のしょうやくなど出来ることを手伝ってもらっている。	食事はこのホームで献立をつくり、調理をして、職員も利用者の中に入って同じ食べ物を皆と一緒に食べる習慣が続いている。だんだん外部業者の力を借りるホームが増えている中で、こんな食事を大切にして皆の一番の楽しみを実現していることは素晴らしいと感じた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量等は経過記録に記入し把握している。体調に合わせて刻み、粥、ペーストで工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の状態に応じた歯磨きの声掛け誘導している。入れ歯洗浄も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛け、動作のサインをキャッチしトイレ誘導している。	座位が保てない人を除いて、他の人は便座で排泄をしている。そしてこの習慣から排泄がスムーズになった人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取をしっかりともらい気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	二日に一回は入浴してもらっている。希望も聞き体調に合わせた入浴方法にしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心身の状態に応じ休憩して頂き夜間ぐっすり眠れるよう日中の活動に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルで把握できるようにしている。用法、用量の変更の際は、職員、主治医、看護師と連携を取り支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあった得意なことを発揮してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ドライブ、外泊、外出したり家族の協力がありできている。	訪問時は寒い季節なので、外には出ることはないが、暖かくなったら外に出れる人は周辺を散歩したりすることもある。少人数でドライブに出掛けることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の状況、状態に合わせて買い物等で支援、応援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者から友人、家族に電話したり、家族、友人からの電話もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある置物、貼り絵を入居者と一緒に作成している。	リビングルームはカラオケルームではないが、歌声一杯の日々である。家族の知り合いの縁から石田きよし歌唱ショーが催された。子供会との交流もあり、クリスマス会も催した。日常は歌以外のレクリエーションもしている。壁の節分に作った鬼のお面が目をついた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、テーブルを置き、居場所を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人らしく写真、置物を飾り、心地よい空間、雰囲気作りをしている。	利用者の一人ひとりの心身機能を見て、安全に生活できるように生活様式を作っている。ベッドや布団を使った生活様式、床板やタタミ敷、収納の仕方等画一的ではなく、色々と配慮してある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手摺、スロープなど設置している。		